



尚 学校だより

3月

令和6年2月28日

横浜市立本宿小学校

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/honjuku/>

『物流の2024年問題』と学校DX（構造改革）

校長 松比良 聡夫

『物流の2024年問題』という言葉を目にします。2018年に働き方改革関連法が公布され、労働時間の上限を制限することが定められました。翌年から様々な業種で順次施行されてきましたが、物流、建設業、医師など一部の業種は今年4月から施行となるそうです。学校にも労働時間上限の規制は定められ、時間外在校時間を削減するようになると、この数年間行政から指導を受けています。『学校は多忙でブラックな現場』というイメージもあるようで、教員採用試験の倍率が2倍を切った自治体もあり、全国的に教員不足から欠員が生じている状態です。本校でも欠員や産育休代替の教員を確保するために毎年苦勞しており、退職した教員等に臨時的任用職員や非常勤講師として勤務してもらっている状態です。

子どもや保護者、地域の皆様にとってより良い学校にすることはもちろん、教職員にとっても持続可能な学校となるように、業務改善を行っています。『教育の質の向上』を目指すことは私たちの使命です。その上で教職員の時間外労働を削減するためには、単なる『削減、廃止』ではなく、他の活動と『統合、整理』したり、様々な新しい取組み（学校業務のクラウド化、すぐ導入、一部教科担当制の導入、iPadの効果的活用等）をしたりして、子どもと向き合うことに時間をかけられるように、今までの形にとらわれない改革を進めています。これは『横浜教育DX』として、市立学校全体で取り組んでおります。

教員の労働時間は8時15分（実は子どもの登校時間と同じ）から、16時45分まで（学校用務員は8時から16時30分）。時間外在校時間をできるだけ削減しつつ、子どもと向き合う時間を増やし、教育の質を高めるために、改革会議を進めています。変更点等については、改めてご連絡致します。

「パナソニックはこの30年間、『作業』に終始し、自主責任経営、すなわち『仕事』をしてこなかった」。パナソニック最高経営責任者の楠見雄規さんはこのような趣旨の年頭所感を述べたそうです。楠見さんがいう仕事とは「ルールやプロセスを改革してでも、より効率的に、より大きな価値を生むような活動」。一方で作業とは「ルールやプロセスに従ってその通りにやること」を指すそうです。「時代遅れになったルールや既成概念をぶち壊し、全能力を傾けて挑戦・価値ある仕事に集中し、自己責任感を発揮するように」とおっしゃったそうです。

このお言葉を拝見し、自分にも思い当たると反省しました。今していることが『作業』なのか『仕事』なのかを見つめ直し、学校でも改善・改革に努めて参ります。

保護者、地域の皆様には、一年間温かいご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございました。心からお礼申し上げます。4月からも職員一同『教育の質の向上』を目指して、授業や行事等、学校の教育課程や業務の改善・改革に努めて参ります。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。